

教材の文体と語法を考える

英語教育講座 小林資忠

1. 授業内容

この授業は平成19年度前学期に国際理解教育コース2回生に開講された科目であり、受講生は国際理解教育コース2回生11名、学校教育実践コース3名であった。

前回の授業と同様に、まず最初に英語の文体や語法について、基本的な考え方を知ってもらうことから始めた。文体に関する Martin Joos の有名な論文 "The Five Clocks" (1962) を取り上げ、時と場所によって、英語の使い方に違いがあることを知り、高校までに学習した学校文法の範囲内だけでは、現実の言語現象をうまく捉えて説明できない例を考察しながら、より広い視野に立った言語現象の捉え方を身につけることを目指した。

さらに、新聞・雑誌から集められた教材を読むことにより、文体に関わる書き手の論旨の進め方についても検討を加えた。

2. 授業改善のためのアンケート

受講者へのアンケートは次の(1)~(7)について実施した。後ろの()の中に人数を示す。13名からの回答があった。

(1) 授業時間外の学習に取り組んでいますか。

- よく取り組んでいる (3)
- まあ取り組んでいる (7)
- あまり取り組んでいない (3)
- まったく取り組んでいない (0)

(2) 教員の話し方や説明のしかたはわかりやすいですか。

- 非常にわかりやすい (5)
- まあまあわかる (7)
- わかりにくい (1)
- まったくわからない (0)

(3) 教科書・プリント・黒板などの使い

方は効果的ですか。

- とても効果的だ (4)
- まあ効果的だ (9)
- あまり効果的でない (0)
- まったく効果的でない (0)

(4) 質問の機会を与えられているか。

- 十分与えられている (9)
- 与えられている (4)
- あまり与えられていない (0)
- まったく与えられていない (0)

(5) 授業の進度・時間配分は適切か。

- とても適切だ (8)
- まあ適切だ (5)
- あまり適切ではない (0)
- まったく適切ではない (0)

(6) 授業の内容・レベルはあなたにとって適切か。

- とても適切だ (8)
- まあ適切だ (5)
- あまり適切ではない (0)
- まったく適切ではない (0)

(7) 授業の改善点があれば、記入してください。

(7)については、今回、意見がなかったが、授業内容や読解についてはかなり徹底できたように思える。レポートやホームワークを課して、さらに授業を充実させたい。日ごろから、見聞する言葉づかいに注意して、時には、メモを取って、現実の言語現象の実態を観察してみるように薦めたいと思う。